

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和4年12月15日(木)
タイトル	田んぼの学校～狩込みどじょっこ会による稲刈り～
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 星野 恵美子

令和4年10月2日(日)、栃木県那須塩原市四区町において、狩込みどじょっこ会による「田んぼの学校(稲刈り)」が開催されました。当初の予定では一週間前の開催でしたが、台風の影響で延期となりました。

朝から清々しい晴天に恵まれ、農家の方・地域の親子・高校生ボランティアなど約60人が参加して稲刈りが行われました。

始めに、農家の方から、稲の刈り取り方と鎌の使い方を教わり、コロナの感染対策として、周りとは十分距離を取って作業することなどの注意事項の説明を聞いて、作業に入りました。

初めは上手に鎌を使えなかった子供達も、保護者に見守られながら、あっという間に上手になり、稲を刈る感触と“ザクザク”という刈った時の音を楽しんでいるようでした。



親子で稲刈り

次に、刈った稲を藁で束ねていく作業に取りかかりました。これはしっかり束ねないと、はざ掛けした時に崩れてしまうので、大人が力を込めて丁寧に縛り上げていきました。

田んぼにはカエル・トンボ・バッタなどの様々な生き物が生息しており、子供達は作業のあいまに生き物を見つけしていました。

最後に、はざ掛けと呼ばれる、稲の束を逆さまに干していく作業は、子供達が稲を運び、大人達が並べて干して協力しながら行いました。



はざ掛けの様子

作業後の「こじはん」はコロナ渦で、残念ながら各自持ち帰りとなりましたが、朝から地域の方が準備してくれたお赤飯のおにぎりとおかずが振る舞われました。

現代では機械を使っての稲刈りが主流となっている中、手作業で行う稲刈りやはざ掛けの体験は大変貴重なものです。水土里ネット那須野ヶ原では、このような昔ながらの米作り体験を次世代の子供達へ伝える活動を、今後も支援していきたいと思っています。



収穫された稲

